

石橋 麻奈美 小児科レジデント H18 年佐賀医科大学卒

後期研修を終了して

私は大学5年生の時に長崎医療センターに見学に来た際、対応して頂いた研修医が、上級医はもちろんのこと他科の医師、コメディカルと積極的なディスカッションをしながらも和気藹々と診療をしている姿を見て、長崎医療センターを選びました。2年間の初期研修では、多くの症例を経験する中で、素晴らしい指導医の先生や仲間にも恵まれ、医師としての基礎を作ることが出来ました。

そして、初期研修終了後引き続いて平成20年4月より小児科後期研修医として勤務しております。長崎医療センターの後期研修としては、小児一般を中心に診療しますが、離島を含めた長崎県央地区の1次から3次の小児救急診療、未熟児・新生児領域の診療を経験することが出来ます。また、小児科の多様な subspecialty に対応するために、国立病院機構内の病院を短期(2-6 カ月)研修できるプログラムも準備されています。私の場合も短期研修やセミナーに行きたい希望は、その実現のため指導医や事務職員がサポートをしてくれ、3年間の後期研修中に専門医試験に必要な症例を十分経験することができました。

長崎医療センターの初期研修中は、毎日朝早くから夜遅くまで、同期と苦楽を共にしました。その仲間は初期研修終了後で様々な病院に分かれて行き、当初はさみしい思いもしましたが、気づけば後輩達がそれ以上に自分を奮起させてくれる存在になっていました。長崎医療センターでは離島医療を含む地域医療を支える医師を育てるために30年以上前よりスーパーローテイトに小児・周産期医療を組み込んでおり、初期研修医が3カ月間診療に携わります。指導する難しさを体験し、指導することで自分の理解にもつながることを日々身をもって経験しています。

また、出産後、育児休暇をとり、その後臨床の現場に復帰されている先輩医師がいることも、女性医師としては大きな利点です。(当科だけではなく麻酔科や眼科、救急科、産婦人科におられ、研修医が受講する初期診療実践セミナーでは「女性医師のキャリアアップ」というセミナーまで開かれたことがあります!) 仕事だけではなく、プライベートまで mentor とする上司が身近にいて、かつ気兼ねなく相談出来る環境を選んで良かったと思っています。